

令和6年度

中堅教諭等資質向上研修の手引 (教諭)



問い合わせ先

島根県教育センター 企画・研修スタッフ

〒690-0873 松江市内中原町255-1

TEL (0852)22-5853 FAX (0852)22-5581

島根県教育センター浜田教育センター 研究・研修スタッフ

〒697-0023 浜田市長沢町1550-1

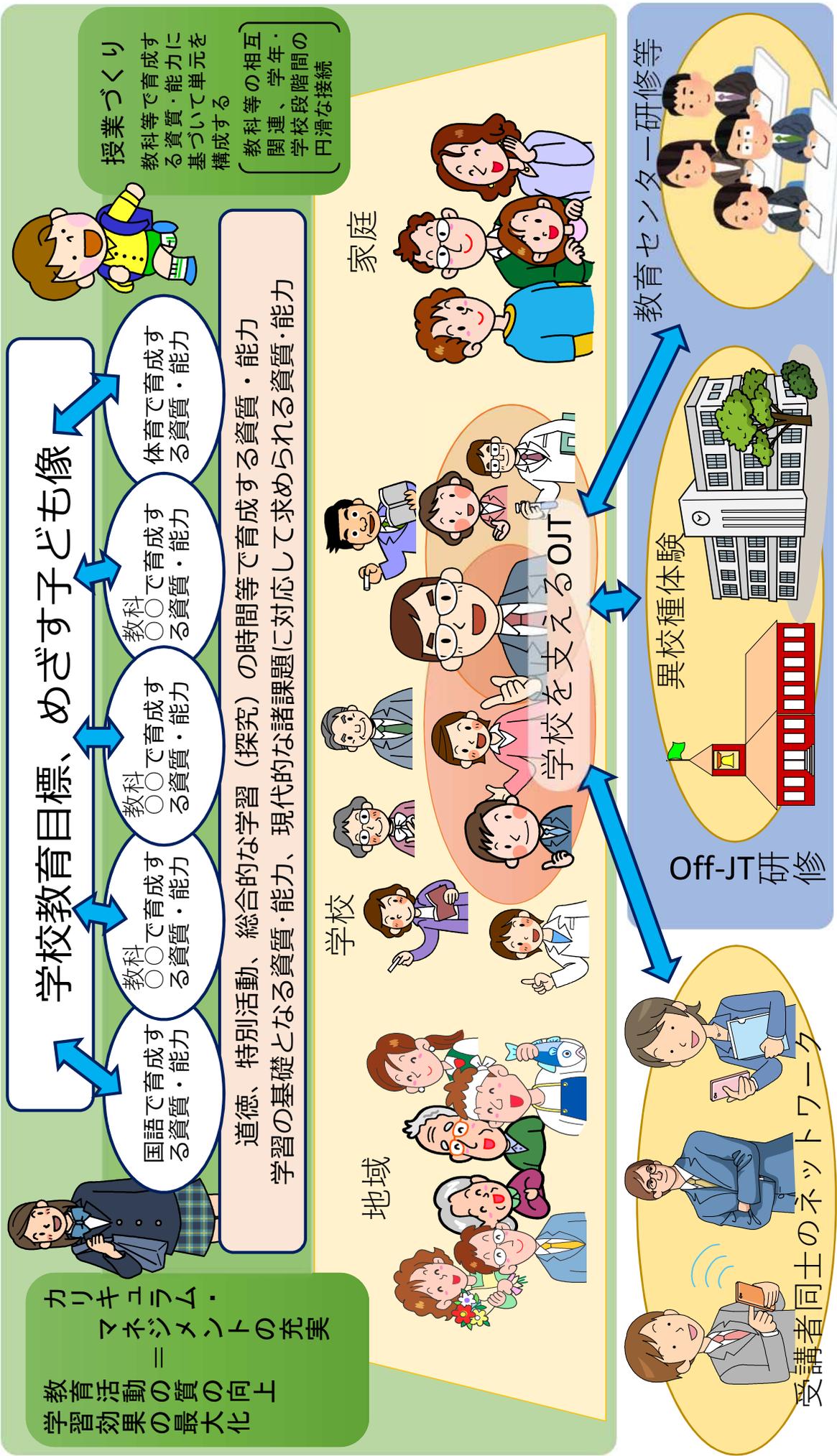
TEL (0855)23-6782 FAX (0855)23-5059

島根県教育委員会

中堅教諭等資質向上研修の目的

- ・ 教科等の専門的知識及び技能
- ・ 中堅教諭としての自覚をもって、学校運営等の重要な役割や若手教員への指導的役割を果たす上で必要な資質能力

資質・能力を育成する授業力向上・職務遂行力向上
カリキュラム・マネジメントの理解と推進



はじめに

～子どもたちのよりよい成長のために、私たちが成長する!～

10年以上の教職経験を経て、探究・発展期（島根県人材育成基本方針）の半ばを過ぎました。10年前と比べると、自信をもって授業が行えるようになったり、校務分掌でも様々な役割を任されたりと、校内の中堅教諭としてやりがいを感じながらも、忙しい日々が続いていることと思います。また、自分自身の学びが深まったことでそれまで気付かなかった難しさを感じるようになり、課題も増えている時期ではないでしょうか。

ところで、10年後の社会はどのようなになっているのでしょうか？その社会に飛び立つ子どもたちが身に付けておかなければならない力とはどんな力なのでしょうか。成長したいと願っている子どもたちの思いに応えるため、私たち自身も学び努力していかなければなりません。

実際に自己研鑽したり、指導を改善したりすることは簡単ではなく、日々の忙しさの中では実践を振り返る時間もないのが現実です。

ただ、忙しい日々の中で走り続けていると見えないものもたくさんあります。少し立ち止まり研修できるこの機会をプラスに捉えて、子どもたちの成長につながる授業力や学校を支える企画力・調整力を一緒に身に付けていきましょう。そして、今後益々増えてくる後輩や学校全体のために、自らの資質能力をさらに高めていきましょう。



島根県の教職員として求められる資質能力

教職員として求められる資質能力は、普遍的でいつの時代にも求められるものと、時代の変化に対応してその時代時代に求められるものがある。社会の変化や時代のニーズに応える学校教育の実現には、教職員の職務に応じた資質能力の向上が不可欠である。職務に関わる専門的知識・技能の他、様々な課題に対応するための実践的指導力の向上を図るためには、常に探究心を持ち自主的に学び続ける力が求められている。また、学校組織の一員としてのコミュニケーション能力、他者と連携・協働する力も大切である。そこで、島根県の教職員として求められる資質能力を次のように定める。

島根県の教職員として求められる資質能力

- 豊かな人間性と職務に対する使命感
- 子どもの発達への支援に対する理解と対応
- 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- よりよい社会をつくるための意欲・能力

キャリアステージに応じて求める姿と育成する資質能力

【採用までに身に付けておいて欲しいこと】

新規採用された段階。教職課程認定を受けた大学等、養成段階での学修等を通して、教育職員として勤めるための素養や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていることが必要である。

【自立・向上期(1～5年目)】

新規採用時からおよそ5年目までの5年間の期間にあたり、教育職員として授業や学級経営等の実践的指導力を身に付けて自立し、向上心を持って成長していく基盤を固める期とする。

【探究・発展期(6～15年目)】

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

【充実・円熟期[前期](16年目～概ね25年目)】

経験16年目以降から概ね25年目の期間にあたる。教育職員として様々な教育実践を重ねることで教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、主任やミドルリーダーとしての自覚や責任を持って教育活動を円滑に進める資質能力を高めていく期とする。

【充実・円熟期[後期](概ね26年目以降)】

概ね経験26年目以降の期間であり、経験豊富で知見があるベテラン層の年代にあたる。教育職員として教科等の専門的知識及び技能をさらに高めていきながら、学校運営にも積極的に参画し、後進にも適切な助言を与えるなど人材育成を図っていく期とする。

島根県公立学校教育職員の育成指標

「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」

教諭等の育成指標

～学び続ける教育職員を目指して～

令和5年3月 島根県教育委員会

資質能力	キャリアステージ	採用までに身に付けておいて欲しいこと*2	自立・向上期 (1~5年目)	探究・発展期 (6~15年目)	充実・円熟期 (16~概ね25年目) 【前期】*3		(26年目以降) 【後期】
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	①人間理解・人権意識	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。					
	②職務に対する誇りと責任	・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。					
	③ふるさとを愛する心	・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。					
2 子どもの発達への理解と対応*1	④生徒指導の推進	・発達段階を踏まえた子ども理解・子ども支援、キャリア発達など生徒指導に必要な基礎理論・知識を習得している。	・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を共感的に受け止め、良さや可能性を伸ばしながら、学級等の集団づくりを進めることができる。	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。	・キャリア発達の視点をふまえ、教職員と協働したり地域社会や外部機関と連携したりしながら、さまざまな場面をとらえて子どもが自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。	・子どもに関わる様々な問題やキャリア発達への対応力を身に付け、学校の教育活動全体を通じた連携体制をつくりながら、子どもの自己実現の達成をめざして支援していくことができる。	
	⑤特別支援教育の推進	・特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導に関する基礎理論・知識を習得している。	・特別な配慮や支援の必要な子どもの実態把握を行い、一人一人のニーズに応じた指導や支援についての計画を立て、実践することができる。	・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。	・特別な配慮や支援の必要な子どもにも組織的に対応するための知識や方法を身に付け、家庭や地域等と連携することができる。	・校内での支援体制の構築や関係機関及び異職種等との連携など、特別支援教育を組織的に推進することができる。	
			<全キャリアステージに共通した指標> ・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方を踏まえて、教育活動を実践することができる。				
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	⑥教科等の指導に関する専門性	・教育課程の編成、教科等の指導方法に関する基礎理論・知識を習得している。	・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。 ・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等の専門的知識及び技能の習得に努めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その視点をふまえて教科等を相互に関連させながら協働して授業研究を行うなど意欲的に教育実践に取り組むことができる。 ・子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を行うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度を高め続けることができる。 ・教科等の相互関連や学校段階間の円滑な接続を意識した教育実践を行うことができる。 ・校内研修の中心的な役割を担うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度をさらに高め、後進に適切な助言を与えながら、人材育成に取り組むことができる。	
	⑦ICTや情報の利活用*4	・ICTを活用した授業デザインを実現するための、ICT活用に関する基礎的な知識（情報モラルを含む）や基本的な技能を有している。	・今まで学んできたICT活用や教育データ活用に関する基礎的な知識・技能を教科等の指導や校務に積極的に取り入れながら活用することができる。	・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。	・時代に即応した知見を取り入れつつ、さらに専門性の向上をはかりながら、同僚と連携・協働し、校内に広めていくことができる。	・校務の情報化の推進に積極的に参画するとともに、後進に適切な助言を与えながら育成することができる。	
	⑧社会の変化への対応	・新たな学びや教育課題に対して、積極的に挑み試行錯誤しながら粘り強く取り組む意欲や探究心を有している。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、長期的な見通しをもって組織的に取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、より幅広い視点に立って自分自身をさらに向上させていくことができる。	
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	⑨学校組織マネジメント	・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。	・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。	・スクールリーダーとしての自覚や責任を持つとともに、企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めることができる。	・学校教育目標の達成を目指し、学校の運営・指導体制構築に積極的に参画することができる。	
	⑩他者との連携・協働	・集団で活動する際、自己を成長させようとする意欲や態度を有している。	・他の教職員の意見を活かしながら、自らの役割に応じて行動することができる。	・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。	・他の教職員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整しながら、相互に支えあう体制づくりができる。	・職場の同僚性が発揮できるような雰囲気づくりをするとともに、後進を育成する観点を持ちながら組織を動かしていくことができる。	
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	⑪地域資源の活用と地域貢献	・学校教育活動を通して、地域社会に貢献することについて、自分なりの考えや意欲を有している。	・子どもと地域社会をつなごうとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。	・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。	・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができる。		
	⑫合意形成に向けた議論の調整・促進	・子ども同士の話し合いの場面において、適切に働きかける力を有している。	・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。	・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。	・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進することができる。		

*1 この指標において「子ども」とは幼児・児童・生徒のことである。

*2 「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。

*3 「充実・円熟期」の「前期」と「後期」の境目は概ね25年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。

*4 指標⑦「ICTや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

目 次

中堅教諭等資質向上研修(教諭)イメージ図

はじめに

島根県の教職員として求められる資質能力

島根県公立学校教育職員の育成指標

中堅教諭等資質向上研修(教諭)概要

中堅教諭等資質向上研修(教諭)実施要項

目的、研修の対象者、研修期間と認定、所属教育センター	3
校内の指導体制、研修内容	4
教育センター研修期日、会場及び研修項目等	6
教育センター研修項目別の目的と内容	7
研修計画	8
研修報告	9
提出物、提出方法及び締切日、その他	10

中堅教諭等資質向上研修(教諭)様式

中堅教諭等資質向上研修(教諭)についての事前調査	13
資質能力自己評価表(探究・発展期)	14
様式1 計画書	16
計画書(記入例)	18
様式2 課題研究構想メモ	20
課題研究構想メモ(自立活動)	21
様式3 授業づくりのプロセス構想シート	22
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】	24
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】	26
授業づくりのプロセス構想シート【自立活動】	28
様式4 課題研究レポート 中間発表用	32
様式5 課題研究レポート	33
様式6 報告書	34
報告書(記入例)	36
報告書等のチェックシート	38
参考様式 研修依頼書	39

中堅教諭等資質向上研修(教諭)年間計画

中堅教諭等資質向上研修の目的	43
校内指導体制	44
研修内容	45
4月	46
4月～5月	47
5月	48
5月～2月	49
5月～6月	50
5月～8月、6月～8月	51
6月～8月	52
9月～10月	53
9月～1月	54
1月～2月	55
2月	56

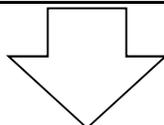
中堅教諭等資質向上研修(教諭)授業づくり

授業づくり	59
授業づくりのねらいと考え方	60
研究の構想に向けて	61
授業づくりのプロセス《単元(題材)づくり》	62
授業づくりのプロセス構想シート(記入例)	70
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】(記入例)	72
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】(記入例)	74
授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】(記入例)	76
授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】(記入例)	78
学習評価	80
課題研究の進め方	81
課題研究構想メモ(記入例)	82
課題研究構想メモ(チェック表)	83
課題研究 構想発表(校内発表)の進め方の例	84
授業づくり②(第Ⅲ回教育センター研修)	85
課題研究 校内中間発表の進め方の例	86
課題研究 中間発表(第Ⅳ回教育センター研修)	87
課題研究 校内成果発表の進め方の例	88
課題研究 成果発表(第Ⅴ回教育センター研修)	89
課題研究 振り返りシート(第Ⅴ回教育センター研修)	90
おわりに	91
研修に役立つ資料	92
誰もが、誰かの、たからもの	93
年間予定表	94

中堅教諭等資質向上研修(教諭)概要

島根県公立学校教育職員 人材育成基本方針における育成指標「探究・発展期」

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

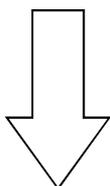


教職経験年数に応じた研修の一環として1年間の研修を実施

【目的】

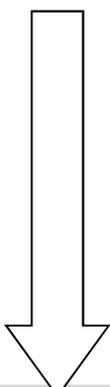
- ・教科等の専門的知識及び技能を高める
- ・個々の能力や適性等に応じて、中堅教諭としての自覚をもって、学校運営等の重要な役割や若手教員への指導的役割を果たす上で必要な資質能力を高める

計画等(4、5月)



- ・自己評価
- ・計画書の作成・提出

研修内容(4月～2月)



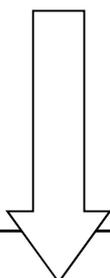
OJT研修

- ・授業づくり [通年]
(課題研究発表3回、授業研究2回)
- ・メンタルヘルス研修 [1回]
- ・学校を支えるOJT [通年]

Off-JT研修

- ・教育センター研修 [4.5日]
 - 集合研修 (1日)
 - オンライン研修 (3日)
 - オンデマンド研修 (0.5日)
- ・異校種体験研修 [2日]

報告(2月)



報告書等の作成・提出

次年度の取組

中堅教諭等資質向上研修 (教諭)

実施要項

目次（実施要項）

中堅教諭等資質向上研修（教諭）実施要項

目的、研修の対象者、研修期間と認定、所属教育センター.....	3
校内の指導体制、研修内容.....	4
教育センター研修期日、会場及び研修項目等.....	6
教育センター研修項目別の目的と内容.....	7
研修計画.....	8
研修報告.....	9
提出物、提出方法及び締切日、その他.....	10

この手引では、下表の左欄の表記を右欄の通り表記する。

島根県教育委員会	県教育委員会
島根県教育センター浜田教育センター	浜田教育センター
島根県教育センター研修情報システム	研修情報システム
校内で管理職を除いた3名以上（対象者を含む）のメンバーからなるチーム	チーム
分校、分教室、乃木校舎	分教室

中堅教諭等資質向上研修(教諭)実施要項

1 目的

教育公務員特例法第 24 条の規定に基づき、個々の能力や適性等に応じて、教諭としての教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、中堅教諭としての自覚をもって、学校運営等の重要な役割や若手教員への指導的役割を果たす上で必要な資質能力の向上を図る。

2 研修の対象者

- (1) 公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教諭のうち、令和5年度末に、教職経験年数が10年以上の者で、中堅教諭等資質向上研修をまだ受講していない者を該当者とし、そのうち、令和6年度に研修を受講する者を対象者とする。(研修年度については、本人の希望や学校の実情等を踏まえ、教職経験年数11年目から13年目の3年間のいずれかの年度で1年間受講するものとする。)
- (2) 教職経験年数の計算にあたっては島根県教職員人事異動ルールに従う。なお、県外での教職経験年数も含める。
- (3) 当該年度において、以下に所属又は派遣されている者は、研修を延期する。学校勤務になった年に受講することとする。

ア 行政機関

学校教育(学校訪問等を通じて学力向上、授業力向上等に係る指導助言等)に係る事務に主として従事しており、県教育委員会が当該者の経験の程度を勘案して、実施する必要がないと認める者は免除することができる。

イ 在外教育施設

ウ 教員長期社会体験研修

- (4) 以下の者は、研修を免除する。

ア 他の任命権者が実施する中堅教諭等資質向上研修(10年経験者研修)を修了した者

イ 兵庫教育大学・島根大学等大学院派遣研修を修了した者(学校勤務になった年に受講することもできる。)

ウ 特別な事情により、県教育委員会が定める者

3 研修期間と認定

- (1) 県教育委員会が定める年度の1年間とする。
 - (2) 全ての研修を修了した者を研修修了と認定する。なお、研修期間については、特別な事情があった場合、8ヵ月以上の研修期間を有することとする。
- ※ 年度途中で対象者の研修が継続不能になるおそれがある場合、校長は所属教育センターに連絡すること。

4 所属教育センター

島根県教育センター	浜田教育センター
松江・出雲・隠岐教育事務所管内の学校の以下の教諭 ○小学校教諭 ○中学校教諭 ○義務教育学校教諭	浜田・益田教育事務所管内の学校の以下の教諭 ○小学校教諭 ○中学校教諭
松江・出雲・隠岐地区の学校の以下の教諭 ○高等学校教諭 ○特別支援学校教諭	大田・浜田・益田地区の学校の以下の教諭 ○高等学校教諭 ○特別支援学校教諭 ※分教室の教諭は、本校の所属教育センターに所属するものとする

5 校内の指導体制

校長は、学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行うこと。又、対象者が本研修を実施するにあたり、校務分掌の軽減等について配慮すること。

校長は、校内で管理職を除いた3名以上（対象者を含む）のメンバーからなるチームを編成すること。
チームのメンバーは、対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図ること。

6 研修内容

(1) OJT研修（日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修）

ア 授業づくり（通年）

[ねらい]

「教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業」に関する主題を設定し、同僚と協働して、授業力の向上を図る。

[内容及び方法]

(ア) 課題研究の発表（3回）

- ・自らが選択した教科等の特性を考慮して、ねらいに沿った主題を決定すること。
- ・課題研究の構想、中間、最終段階に校内の教職員の前で発表すること。

(イ) 授業研究（2回）

- ・課題研究に関連した授業及び協議を2回行うこと。
※1回目は校内構想発表後から第Ⅲ回教育センター研修までに実施し、2回目は第Ⅲ回教育センター研修後から1月中旬までに実施すること。
- ・「研究授業前の学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」をもって1回とする。

イ メンタルヘルス研修（1回）

[ねらい]

心身の健康の保持増進を図るために、ストレスに対処する考え方や行動を身に付ける。

[研修方法]

- ・2月中旬までに、管理職又は養護教諭等（ただし、スクールカウンセラーは除く）による研修を受講する。又は、島根県、県教育委員会、市町村及び市町村教育委員会が主催又は後援する研修に参加することで代えてもよい。
- ・旅費が発生する場合は、市町村立学校は「指定旅費」、県立学校は「教職員研修事業費」で対応すること。

ウ 学校を支えるOJT（通年）

[ねらい]

中堅教諭としての自覚を高め、日常の教育活動の中で、学校運営等に重要な役割を果たすための企画力や調整力を身に付け、望ましい教職員の集団づくりに向けた取組を行う。

[内容]

- ・学校教育目標や自校の課題を踏まえ、チームや管理職と相談しながら、自身の資質能力を高めるための取組を行うこと。
- ・「若手教員の人材育成」又は「得意分野を生かした人材育成」のいずれかを取り組むこと。
（※P49 に例を掲載）

(2) Off-JT研修（日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修）

ア 教育センター研修(4.5日)

[ねらい]

- ・教科等の専門的知識及び技能を高める。
- ・学校運営等の円滑かつ効果的な実施において、重要な役割を果たす上で必要な資質能力の育成を図る。
- ・対象者同士の協議を通して互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

[研修方法及び研修場所]

- ・集合研修(1日)……………教育センターが指定した会場
- ・オンライン研修(3日)……………所属校又は校長が指定した場所
- ・オンデマンド研修・校内発表(0.5日)……………所属校又は校長が指定した場所

イ 異校種体験研修(2日)

[ねらい]

異校種の授業への体験的参加などを通して、系統性や発達の段階を踏まえた授業の在り方や異校種間の連携について理解し、自らの教育実践を振り返るとともに指導力の向上を図る。

[研修日数、内容]

- ・2月中旬までに通算2日実施すること。
- ・内容は、参観だけでなく、児童生徒等に関わる体験的なものを含めること。

[研修先の範囲]

- ・所属校が所在する市町村又は近隣の幼稚園、認定こども園、認可保育所、小・中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校とする。
- ・2日とも同一の学校・園において研修を行う。なお、所属校と研修先学校園の所属長又は校地が同一の場合は、研修先として認めない。

[研修の依頼と報告]

- ・校長及び対象者は、当該研修先を選定し、受け入れ先と協議した後、研修依頼書(参考様式)を研修先の所属長に提出すること。
- ・対象者は、研修終了後に校長へ報告をすること。

[その他]

- ・旅費が発生する場合は、市町村立学校は「指定旅費」、県立学校は「教職員研修事業費」で対応すること。
- ・県内外の公立の異校種学校にて正規教職経験1年以上の勤務がある場合は、異校種体験研修を免除する。

[教育センター研修期日、会場及び研修項目等]

回	期日	会場	対象者	研修項目等
第Ⅰ回	オンライン 5月21日(火) 又は 5月22日(水)	所属校 又は 校長が指定した場所	5/21 課題研究教科 算数、理科、外国語活動、 外国語、図工・美術、技 術、家庭、道徳、情報、農 業、工業、商業、水産、福 祉、各教科等を合わせた 指導、自立活動、理療 5/22 課題研究教科 国語、社会、地歴、公民、 数学、生活、音楽、保健体 育、総合的な学習(探究) の時間、特別活動、その 他	○開講式 ○中堅教諭等資質向上研修について ○授業づくり① ・学習指導要領のめざすもの ・各教科等の見方・考え方と育成する 資質・能力 ・学習評価 ・1回目研究授業構想 ○情報交換
第Ⅱ回	オンデマンド 6月～8月末	所属校 又は 校長が指定した場所	全員 	①教育の情報化とICT活用実践紹介 (必ず視聴すること) ②教職員の倫理と服務 ③竹島に関する学習 ④人権教育 ⑤カリキュラム・マネジメント ⑥キャリア教育 ※①以外は、年度内の校内研修で実 施される場合、必ずしも視聴する必 要はない。
第Ⅲ回	集合(6研と合同で実施) 8月2日(金) 8月5日(月) 8月6日(火)	浜田 教育センター 島根県 教育センター	「授業づくり」グループによっ て期日・会場が異なる。 ※決定事項は第Ⅰ回教育 センター研修で連絡する。	○生徒指導・教育相談 ○授業づくり② ・授業研究 ・課題研究、2回目研究授業構想
第Ⅳ回	オンライン 10月17日(木) 10月18日(金)	所属校 又は 校長が指定した場所	第Ⅲ回教育センター研修と 同じグループによる期日 ※臨時にグループ変更をし た場合はこの限りではな い。	○学校を支えるOJT ○授業づくり③ ・ICT活用実践共有 ・課題研究中間発表 ○情報交換 
第Ⅴ回	オンライン 2月13日(木) 2月14日(金)	所属校 又は 校長が指定した場所	第Ⅲ回教育センター研修と 同じグループによる期日 ※臨時にグループ変更をし た場合はこの限りではな い。	○特別支援教育 ○授業づくり④ ・課題研究成果発表 ・授業づくりの振り返り ・情報交換 ○教育職員としての資質能力を高め るために ○閉講式 ○研修の振り返り

※ 各回の教育センター研修実施要項は、実施日の3週間前に研修情報システムMyPageに公開する。

※ 対象者が、教育センター研修を欠席、遅刻、早退、会場・期日の変更をする場合、管理職は所属教育センターに連絡すること。

※ 教育センター研修を欠席した場合、対象者は所属教育センターの課す補充的研修を校内において実施し、そのレポートを所属教育センターの長に提出すること。なお、レポートは管理職の指導と決裁を受けたものとする。

[教育センター研修項目別の目的と内容]

回	研修項目	目的と内容	
第Ⅰ回 (オンライン)	中堅教諭等資質向上研修について	中堅教諭等資質向上研修の意義や目的、内容等を理解し、研修の見直しをもつ。 (ア)研修の意義や目的等 (イ)課題研究の進め方	
	授業づくり①	学習指導要領のめざすもの	学習指導要領の趣旨を理解する。 (ア)学習指導要領の趣旨の理解 (イ)個別最適な学びと協働的な学びについての理解(教育の情報化を含む)
		各教科等の見方・考え方と育成する資質・能力	各教科等の「見方・考え方」と「育成する資質・能力」を理解する。 (ア)各教科等の「見方・考え方」についての理解 (イ)各教科等で「育成する資質・能力」についての理解
		学習評価	教師の授業改善、児童生徒の学習改善のための学習評価について理解を深め、今後の実践に生かす。 (ア)学習評価の意義 (イ)学習評価計画の理解
		1回目 研究授業構想	教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業の構想力を高める。 (ア)教科等の見方・考え方を働かせる授業づくり (イ)「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくり
第Ⅱ回 (オンデマンド)	教育の情報化	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア)情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ)教育情報セキュリティ	
	ICT活用実践紹介	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用(児童生徒1人1台端末)について実践事例を通して理解し、ICT活用指導力の向上を目指す。 (ア)取組の実際と課題 (イ)ICTを活用した授業改善の理解	
	教職員の倫理と服務	教職員として、高い倫理観と教職に対する情熱・意欲や使命感、責任感をもつ。 (ア)教育法規等についての理解 (イ)事例から学ぶ	
	竹島に関する学習	竹島問題について、歴史的事実や国際法上の根拠等についての理解を深め、竹島に関する学習を充実させるための指導力を高める。 (ア)島根の指導者に求められること (イ)竹島問題についての正しい理解 (ウ)「竹島に関する学習」のこれから	
	人権教育	中堅教諭等として、誰もが安心して学びに向かえる学校づくりを推進するためのコーディネートをする力を身に付ける。 (ア)島根が目指す人権教育の理念に基づく組織的な取組の推進 (イ)人権が尊重される環境・集団づくり	
	カリキュラム・マネジメント	教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントについて理解し、組織の一員としての実践意欲を高める。 (ア)カリキュラム・マネジメントの意義 (イ)カリキュラム・マネジメントの進め方・組織の一員としての役割	
	キャリア教育	児童生徒の実態に合わせたキャリア・パスポートの活用方法及び学年間・異校種間における引継ぎについて理解するとともに、組織の一員としての実践意欲、実践力の向上を図る。 (ア)児童生徒の実態に応じたキャリア・パスポートの活用 (イ)学年間・異校種間における引継ぎ (ウ)校内におけるキャリア・パスポートの活用推進 (エ)キャリア・パスポートを活用したカリキュラム・マネジメント	
第Ⅲ回 (集合)	生徒指導・教育相談	児童生徒・保護者等を適切に支援し、様々なケースに対応していく力量や校内での生徒指導・教育相談の推進を図るための実践力を高める。 (ア)児童生徒・保護者等への支援 (イ)状況に応じた連携支援	
	授業づくり②	授業研究	授業の視聴や授業についての協議を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行うための実践意欲を高める。 (ア)教科等の見方・考え方を働かせる授業の在り方 (イ)資質・能力を伸ばす授業の在り方
		課題研究と研究授業の構想	授業づくり及び課題研究における成果や課題を見いだすとともに、教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業の構想力を高める。 (ア)課題研究の振り返りと見直し・推進・発展 (イ)各教科等の目標に迫る授業づくり

第Ⅳ回(オンライン)	学校を支えるOJT		中堅教諭としての役割の自覚を高めるとともに、人材育成の重要性についての理解を深め、望ましい教職員の集団づくりに向けた実践力を身に付ける。 (ア)人材育成の重要性 (イ)「学校を支えるOJT」の取組の振り返り
	授業づくり ③	ICT活用実践共有	学習場面でのICTを活用した実践を紹介しあい、子どもの学習場面におけるICTの効果的な活用に向けた実践的意欲を高める。 (ア)取組状況の共有 (イ)成果と課題の整理・分析
		課題研究中間発表	課題研究中間発表を通して、「教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業」について理解を深めるとともに、今後の授業実践や課題研究における課題を明らかにする。 (ア)課題研究中間発表
第Ⅴ回(オンライン)	特別支援教育		共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について理解を深め、校内での特別支援教育の推進を図るための実践力を高める。 (ア)校内における特別支援教育の推進
	授業づくり④		課題研究成果発表等を通して1年間の研修を振り返り、研修の成果を確かめるとともに、次年度の授業実践について展望をもつ。 (ア)課題研究成果発表 (イ)授業づくりの振り返り (ウ)情報交換
	教育職員としての資質能力を高めるために		持続可能な学校教育の中で、自らの人間性や創造性を高め、教育職員としての充実感を得るとともに、子どもの生きる力を育む教育活動を行うために学び続けようとする実践意欲を高める。 (ア)これからの学校教育を担う新たな教師の学びの姿 (イ)学校組織マネジメントの必要性
	研修の振り返り		中堅教諭等資質向上研修(教諭)を振り返り、次年度以降の取組への展望と意欲をもつ。 (ア)1年間の振り返り

7 研修計画

(1) 中堅教諭等資質向上研修についての事前調査

年間を通して研究する教科等についての事前調査に、研修情報システムMyPageから回答すること。

[回答メ切 4月11日(木)]

※小学校数理枠採用者は、「算数」又は「理科(生活科)」を課題研究の教科とする。ただし、本年度、島根県、中国地区又は全国規模の研究大会会場であり且つ算数又は理科でない授業を公開する場合、その公開授業を1回の校内研究授業に代えることができる。ただし、算数又は理科でない場合でも、課題研究テーマに沿った授業を構想する。

※特別支援学級担任及び通級指導教室担当者は、「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択することができる。

※特別支援学校の対象者は、教科等(「各教科等を合わせた指導」「自立活動」以外)を選択することができる。その際、自身の採用教科や授業の有無等を踏まえて決定する。

※特別支援教育担当枠採用者で特別支援学級を担任している者は、「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択する。

(2) 自己評価

- ・対象者は、5つの「育成指標における資質能力」について、資質能力自己評価表(P14,15)を基にこれまでの実践等を振り返り、自己の優れている点及び課題を計画書[様式1]に記入すること。
- ・対象者は、5つのうちから「重点とする資質能力」を2つ選び、今年度伸ばしたい点を計画書[様式1]に記入すること。

(3) 校長面接

- ・校長は、島根県教職員評価システムにおける年度当初面接等を利用し、(2)について対象者と面談を行うこと。
- ・校長は、対象者の資質能力や課題、得意分野、研修内容の希望等について聴取するとともに、対象者に対する今年度の育成方針を伝え、共通理解を図ること。

(4) 研修計画書の作成(計画書[様式1]については、P18,19「計画書記入例」を参照)

- ・対象者は、管理職と相談しながら研修計画を立て、計画書を作成し、PDFファイルにて校長に提出すること。

(5) 研修計画書の提出

- ・校長は、対象者から提出された計画書を、研修情報システム学校Page[報告書提出]からPDFファイルで提出すること。

8 研修報告

(1) 自己評価

- ・対象者は、5つの「育成指標における資質能力」について、資質能力自己評価表(P14,15)を基に1年間の研修の取組について振り返ること。
- ・対象者は、計画時に選んだ「重点とする資質能力」の2つについて、取組に対する成果と次年度以降の展望及び学校を支えるOJTの成果について報告書[様式6]に記入すること。

(2) 校長面接

- ・校長は、島根県教職員評価システムにおける年度末面接等を利用し、対象者と面談を行うこと。
- ・校長は、対象者の資質能力について向上したところ、取組の成果や課題、今後への期待などを対象者に伝えること。

(3) 研修報告の作成(報告書[様式6]については、P36,37「報告書記入例」参照)

- ・対象者は、校長面接で受けた指導・助言等をもとに報告書を作成し、課題研究レポート(最終報告用)、学習指導案(密案1回分)と共に、PDFファイルにて校長に提出すること。

(4) 報告書等の提出

- ・校長は、対象者から提出された報告書、課題研究レポート、学習指導案を、研修情報システム学校Page[報告書提出]からPDFファイルでそれぞれ別々に提出すること。

9 提出物、提出方法及び締切日

	様式	提出物	提出方法		締切日
			研修情報システム My Page	学校 Page	
①	—	中堅教諭等資質向上研修についての事前調査	○		4月11日(木)
②	様式1	計画書		○	6月6日(木)
③	様式2	課題研究構想メモ	○		6月13日(木)
④	—	課題研究構想メモ(最新版)、学習指導案等の研究の様子を説明できるもの	○		7月29日(月)
⑤	—	第Ⅱ回教育センター研修 オンデマンド研修校内発表資料 ※発表資料はサイトに掲載し、県内の学校で活用できるようにするため、記載内容については著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮する。	○		校内発表実施後1週間以内 最終締切9月19日(木)
⑥	様式4	課題研究レポート 中間発表用	○		10月10日(木)
⑦	様式5	課題研究レポート(成果発表用)	○		令和7年 2月6日(木)
⑧	様式5	課題研究レポート(最終報告用) ※研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮する。		○	2月27日(木)
⑨	—	学習指導案(密案1回分)		○	
⑩	様式6	報告書		○	

※一覧表を参照し、校長の指導・助言、決裁を受け、締切日までにPDFファイルで提出すること。

※校長は、②⑧⑨⑩を研修情報システム学校Pageの[報告書提出]からそれぞれ別々に提出すること。

※対象者は、①③～⑦を研修情報システムMyPageの[マイキャビネット]から提出すること。

※著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮すること。

10 その他

研修の成果は、職員へ還元し、より多くの職員の資質能力の向上と学校の活性化につながるように努めること。さらに、校内研修はもとより、県内の各種研修会等で積極的に発表することが望ましい。

中堅教諭等資質向上研修 (教諭)

様式

目次（様式）

中堅教諭等資質向上研修(教諭)についての事前調査.....	13
資質能力自己評価表(探究・発展期).....	14
様式1 計画書.....	16
計画書(記入例).....	18
様式2 課題研究構想メモ.....	20
課題研究構想メモ(自立活動).....	21
様式3 授業づくりのプロセス構想シート.....	22
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】.....	24
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】.....	26
授業づくりのプロセス構想シート【自立活動】.....	28
様式4 課題研究レポート 中間発表用.....	32
様式5 課題研究レポート.....	33
様式6 報告書.....	34
報告書(記入例).....	36
報告書等のチェックシート.....	38
参考様式 研修依頼書.....	39

《令和6年度中堅教諭等資質向上研修(教諭)についての事前調査》

この調査は、「授業づくり」における研修グループ・研修会場の決定及び研修前の教諭としての資質能力について自己評価するためのものです。

P13～15の項目について、「研修情報システムMyPage>各種ダウンロード>教職員研修の各種様式等をダウンロードする>中堅教諭等資質向上研修」のリンク先サイトから回答してください。



https://kensyu.pref.shimane.lg.jp/webrsv/index_personal_training_history.php

回答メ切 令和6年4月11日(木) 17:00

項 目	留 意 事 項
所属教育センター	P3を参照する。
校種等	リストから選択する。
学校名	分校等まで記入する。 例) 松江市立母衣小学校、隠岐の島町立西郷中学校、 浜田水産高等学校 出雲市立河南中学校若松分校、出雲養護学校大田分教室
氏 名	姓と名の間は1文字空ける。
担当学年	複数学年を担当している場合は、担当している全ての学年を選択
研究対象教科等	○小学校数理枠採用者は、「算数」又は「理科(生活科)」を課題研究教科とする。(ただし、本年度、島根県、中国地区又は全国規模の研究大会会場であり且つ算数又は理科でない授業を公開する場合、その公開授業を1回の校内研究授業に代えることができる。算数又は理科でない場合でも、課題研究テーマに沿った授業を構想する。) ○特別支援学級担任及び通級指導教室担当者は、「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択することができる。 ○特別支援学校の対象者は、教科等(「各教科等を合わせた指導」「自立活動」以外)を選択することができる。その際、自身の採用教科や授業の有無等を踏まえて決定する。 ○特別支援教育担当枠採用者で特別支援学級の担任をしている者は「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択する。
校内研究授業1回目の 単元(題材)名	第I回教育センター研修にて、この単元(題材)の教材研究を行う。 未定の場合は「未定」と書き、第I回教育センター研修までに決めておく。
特記事項	研修を受ける上で、教育センターに伝えておきたいこと。
資質能力自己評価	あらかじめ資質能力自己評価表(P14,15)に記入後、アンケートに回答する。

資質能力自己評価表(探究・発展期)

学校名[

] 氏名[

]

【評価】 4:よく当てはまる 3:当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない ○で囲む

資質能力		育成指標	評価項目	研修前評価	研修後評価
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	人間理解・人権意識	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。	職員の姿が子どもに影響を及ぼすことを理解し、子どもが一人の人間として大切にされていると実感できる環境づくりを心掛けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な価値観を尊重する態度や幅広い視野・知識を身に付けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	職務に対する誇りと責任	・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。	高い倫理観と教職に対する使命感、責任感を持ち、教育職員として生涯を通じて学び続け、子ども一人一人の主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			危機管理意識を高め、教育活動における事故・災害等に対して備えたり、事前指導、対応、事後指導を行ったりできるようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
ふるさとを愛する心	・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。	ふるさとを愛し、県や学校の所在する地域の特長を理解するとともに、「ふるさと教育」を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1	
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応	生徒指導の推進	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。	子どもとの信頼関係づくりに努めるとともに、子ども相互の好ましい人間関係を構築する視点で個に応じた指導や集団指導を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、日常的な教育活動を通じて、子どもたちが社会的自立に向けた資質・能力を身に付けられる取組を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			子どもが、学ぶことと社会とのつながりを意識し、自分らしい生き方を実現するための支援を組織的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	特別支援教育の推進	・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。 ・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方を踏まえて、教育活動を実践することができる。	一人一人の教育的ニーズを把握し、支援計画や指導計画に基づき、子どもが主体的に学ぶ授業実践に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
校内の教職員間で共通理解を図り、すべての子どもの学びが保障されるための学習環境づくりや授業実践に努めている。			4 3 2 1	4 3 2 1	

資質能力		育成指標	評価項目	研修前評価	研修後評価
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	教科等の指導に関する専門性	<ul style="list-style-type: none"> 教科等の専門的知識及び技能の習得に努めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その視点をふまえて教科等を相互に関連させながら協働して授業研究を行うなど意欲的に教育実践に取り組むことができる。 子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を行うことができる。 	各教科等の目標の達成に向けた計画、実践及び評価を行い、子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を続けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			学校教育目標の実現を目指し、教科横断的な視点に立った資質・能力を踏まえた指導計画を立てている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			各教科(単元)等で育成する資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、子どもが自己調整しながら学習を進めていくことができるように指導している。	4 3 2 1	4 3 2 1
			研究実践、校内外の授業参観や研究会参加などを通して、各教科等の指導の在り方を考え、子どもの資質・能力を育む授業実践に生かしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	ICTや情報の活用	<ul style="list-style-type: none"> 教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。 学校におけるICT活用の意義を理解し、教育活動の中で効果的に活用するとともに、他の教職員と共有し広めていくことができる。 子どもの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための授業実践を行うことができる。 	ICTを活用し、子どもの情報活用能力育成のための計画立案や実践に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用している。	4 3 2 1	4 3 2 1
社会の変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。 	新たな学びや教育課題に対応した教育(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、いじめ・不登校等への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用等)の推進に向けて校内で協働して取り組む体制を整え、実践に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1	
4 学校組織の一員として 考え行動する意欲・能力	学校組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。 	学校教育目標や経営方針に基づき、自らが担当する校務分掌に関する計画及び学級・学年経営案を立て、その実現を図るとともに、適宜評価を行い改善に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			組織の一員としての役割を理解し、教師は創造的で魅力ある仕事であることの認識と誇りをもって働いているとともに、働き方改革の実現に向けて積極的に取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
	他者との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。 	同僚等から学ぶ姿勢をもつとともに、連携・協働して自校の課題解決を図っている。 校内研修や授業研究をはじめとする学校における様々な機会や場面において、後進に助言を与えるなどして、校内の人材育成に前向きに取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	地域資源の活用と地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。 	学校外の教育資源を教育課程の内容と効果的に組み合わせ、地域住民等と連携・協働して教育活動に取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
			魅力ある学校づくりが、魅力ある地域づくりにつながることを理解し、それを地域と共有し、互いに活性化するようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	合意形成に向けた議論の調整・促進	<ul style="list-style-type: none"> 現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。 	魅力ある学校づくり(学校教育目標の実現)を目指して職員が議論をしたり、協働したりするように働きかけている。 子どもが集団や自己の生活、人間関係等の課題を解決するために、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりできるような場面を意図的に設定している。	4 3 2 1	4 3 2 1

様式 1 (教諭)

〇〇〇第〇〇号
令和6年〇月〇〇日

島根県教育センター所長 様

〇〇学校長 〇〇〇〇

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 計画書

1 対象者

職名	教諭	氏名		研修用 個人番号 (3桁)※1	
所属学年等			担任の有無	有 ()・無 () どちらかに○	
担当教科等 ※2		教科 () 担当学年等 ()			
主な校務分掌					

※1 第I回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号(8桁の職員番号ではない)

※2 中学校、義務教育学校後期課程、高等学校、特別支援学校の中・高等部の教諭のみ記入する。

2 事前自己評価

育成指標における資質能力	優れている点及び課題
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応	
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	
重点とする資質能力(番号)	今年度伸ばしたい点
上から選びその数字を記入 ()	
上から選びその数字を記入 ()	

3 中堅研チーム

チームメンバーの氏名及び 役職・教科等	
------------------------	--

4 研修計画

(1) OJT研修

授業づくり (研究教科等)

研究する教科等	
---------	--

授業づくり (課題研究発表)

研修内容等	実施予定日	校内外の指導助言者
校内構想発表	月 日	
校内中間発表	月 日	
校内成果発表	月 日	

授業づくり (授業研究)

	内 容	実施予定日	校内外の指導助言者
1回目	学習指導案審議	月 日	
	研究授業	月 日	
	研究協議	月 日	
2回目	学習指導案審議	月 日	
	研究授業	月 日	
	研究協議	月 日	

メンタルヘルス研修

実施予定日	月 日	指導者(研修会名)	
-------	-----	-----------	--

学校を支えるOJT

どちらかに○	ねらい・内容等
() 若手の人材育成	〈ねらい〉
() 得意分野を生かした人材育成	〈内容等〉

(2) Off-JT研修

オンデマンド研修 校内発表

実施予定日	月 日	研修項目	
-------	-----	------	--

異校種体験研修 (2日)

実施予定日	研修先	研修内容
月 日		
月 日		

※ 記入にあたっては、P8, 18, 19を参照すること。

※ 計画書は2ページに収めること。

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・計画書・個人研修番号・学校名・氏名】として提出すること。

(例) 中堅研・計画書・111・〇〇中・〇〇〇〇 (個人研修番号は半角)

様式 1 (教諭)

記入例

島教セ第 123 号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

「文書番号」を
取得する。

島根県教育センター所長 様

〇〇学校長 〇〇〇〇

令和〇年度 中堅教諭等資質向上研修 計画

中堅教諭等資質向上研修の名簿
に記載されている3桁の番号

1 対象者

職名	教諭	氏名	〇〇 〇〇	研修用 個人番号 (3桁)※1	123
所属学年等		担任の有無	有 (<input type="radio"/>) ・ 無 (<input type="checkbox"/>) どちらかに〇		
担当教科等 ※2	教科 (社会科)		担当学年等 (2年生、3年生)		
主な校務分掌	研究主任、陸上部顧問				

※1 第I回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号(8桁の職員番号ではない)

※2 中学校、義務教育学校後期課程、高等学校、特別支援学校の中・高等部の教諭のみ記入する。

2 事前自己評価

育成指標における資質能力	優れている点及び課題
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	学び続ける気持ちを大切にし・・・
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応	担任する学級の生徒について、校内の特別支援コーディネーターや特別支援学級の担任と連携して・・・
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	専門教科の社会科についての知識理解を深め、その目標・・・
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	研究主任を務めるのは初めてであるが、これまで授業改善について取り組んできた経験を踏まえ、今年度は・・・
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	地域との連携については、・・・
重点とする資質能力(番号)	今年度伸ばしたい点
上から選びその数字を記入 (3)	・・・する力を身に付けたい。社会科公民的分野の学習や職場体験学習等、地域と連携する学習の際に・・・
上から選びその数字を記入 (4)	研究主任として・・・できる力を伸ばしたい。そのために・・・

1~5から
2つ選ぶ

上の育成指標から選び、
その数字を記入する。

対象者を含め3名以上を選んでチ
ームを作る。(管理職は除く。)

3 中

チームメンバーの氏名及び 役職・教科等	〇〇〇〇 (研究主任) ←対象者 △△△△ (6年目研修受講者) □□□□ (初任者研修受講者)
------------------------	--

4 研修計画

(1) OJT研修

授業づくり (研究教科等)

研究する教科等	社会
---------	----

授業づくり (課題研究発表)

研修内容等	実施予定日	校内外の指導助言者
校内構想発表	5月20日	校長・研究主任
校内中間発表		研究主任
校内成果発表		教頭

指導主事を招いて研究授業を実施する場合は、小中学校は所属の教育事務所長、県立は指導主事が所属する所属長宛に、管理職を通して講師派遣を申請する。
申請期間や申請方法は教育機関によって異なるため、4月上旬の内に確認しておく。

授業づくり (授業研究)

	内容	実施予定日	校内外の指導助言者
1回目	学習指導案審議	6月下旬	校長
	研究授業	7月11日	教育センター指導主事
	研究協議	7月11日	教育センター指導主事
2回目	学習指導案審議	12月上旬	研究主任
	研究授業	1月上旬	教頭・研究主任
	研究協議	1月上旬	

スクールカウンセラーは指導者にはなれない。

メンタルヘルス研修

実施予定日	8月21日	指導者(研修会名)	教頭
-------	-------	-----------	----

学校を支える OJT

どちらかに○	ねらい・内容等
(○) 若手の人材育成	<p>〈ねらい〉 率先して授業を見せたり、・・・・・・・・若手教員が意欲的に自らの資質能力を向上させることができる。</p> <p>〈内容等〉 ・日頃から悩みを聞いたり・・・・ ・初任者の研究授業 ・ ・</p>
() 得意分野を生かした人材育成	<p>オンデマンド研修「教育の情報化とICT活用実践紹介」「教職員の倫理と服務」「竹島に関する学習」「人権教育」「カリキュラム・マネジメント」「キャリア教育」の中から1つ選ぶ。</p>

(2) Off-JT研修

オンデマンド研修 校内発表

実施予定日	8月23日	研修項目	
		研修先	研修内容
		〇〇高等学校	授業参観、打ち合わせ チーム・ティーチングによる授業実践及び協議
10月下旬			

計画書提出までに期日等が決まらない場合は、「未定」と記入する。
免除される場合は、勤務した学校名と期間を記入する。

※ 記入にあたっては、P8, 18, 19 を参照すること。

※ 計画書は2ページに収めること。

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・計画書・個人研修番号・学校名・氏名】として提出すること。

(例) 中堅研・計画書・111・〇〇中・〇〇〇〇 (個人研修番号は半角)

様式2 (教諭) 課題研究構想メモ

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 ()
教科等の見方・考え方と育成する資質・能力

研究主題

研究の動機

【学校教育目標や学校で目指す子ども像、校内研究等】

【学校や児童生徒等の実態 (強み、弱み)】

研究の目的

研究仮説

研究(実践)方法

検証方法

★課題研究「校内構想発表」における協議内容、チームメンバー及び管理職からの指導・助言

様式2 (教諭) 課題研究構想メモ(自立活動)

学校名 () 個人番号・氏名 ()

育成すべき資質・能力を支える自立活動という視点を持ち、指導目標に迫る授業ができる

自立活動の目標

研究主題

研究の動機

【学校教育目標や学校で目指す子ども像、校内研究等】

【学校や児童生徒等の実態（強み、弱み）】

研究の目的

研究仮説

研究(実践)方法

検証方法

★課題研究「校内構想発表」における協議内容、チームメンバー及び管理職からの指導・助言

様式3 (教諭)

授業づくりのプロセス構想シート

教科等		学年		指導者	
-----	--	----	--	-----	--

①学校教育目標、めざす子ども児童生徒像、研究主題

②単元(題材)名 (単元(題材)を貫く問い、育成する資質・能力などにつながる名称)

③単元(題材)で育成する資質・能力	④単元(題材)の評価規準
【知識及び技能】(職業に関する教科【知識及び技術】)	【知識・技能】(職業に関する教科【知識・技術】)
【思考力、判断力、表現力等】	【思考・判断・表現】
【学びに向かう力、人間性等】	【主体的に学習に取り組む態度】

⑤見方・考え方を働かせている児童生徒の姿
 (課題解決のために、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方を働かせているのか、既習の学びをどのように活用しているのか)

⑥単元(題材)で育成する資質・能力のつながり(小学校 → 中学校 → 高等学校)

⑦児童生徒の実態 (単元(題材)にかかわる興味・関心、問題意識、学習前後の資質・能力の差(違い)、重点指導内容など)

⑧児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための手立てや支援

⑨教師の評価言(問いへの価値づけ、見方・考え方への価値づけ、学び方への価値づけ、全体共有など)

⑩指導と評価の計画

時間	目標(ねらい)・学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

様式3 (教諭)

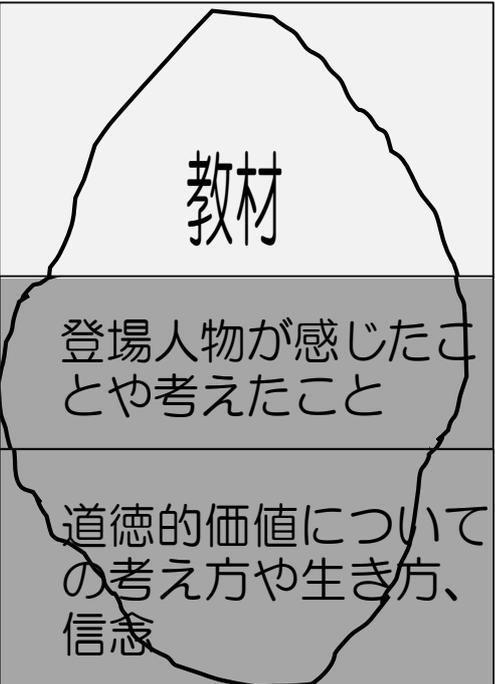
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】

教材名 (出典)

主題名

本時の内容項目の見出し	
内容項目の分析・理解 (一緒に考えたいポイント)	
内容項目に係る児童生徒の実態	期待する児童生徒の考え 

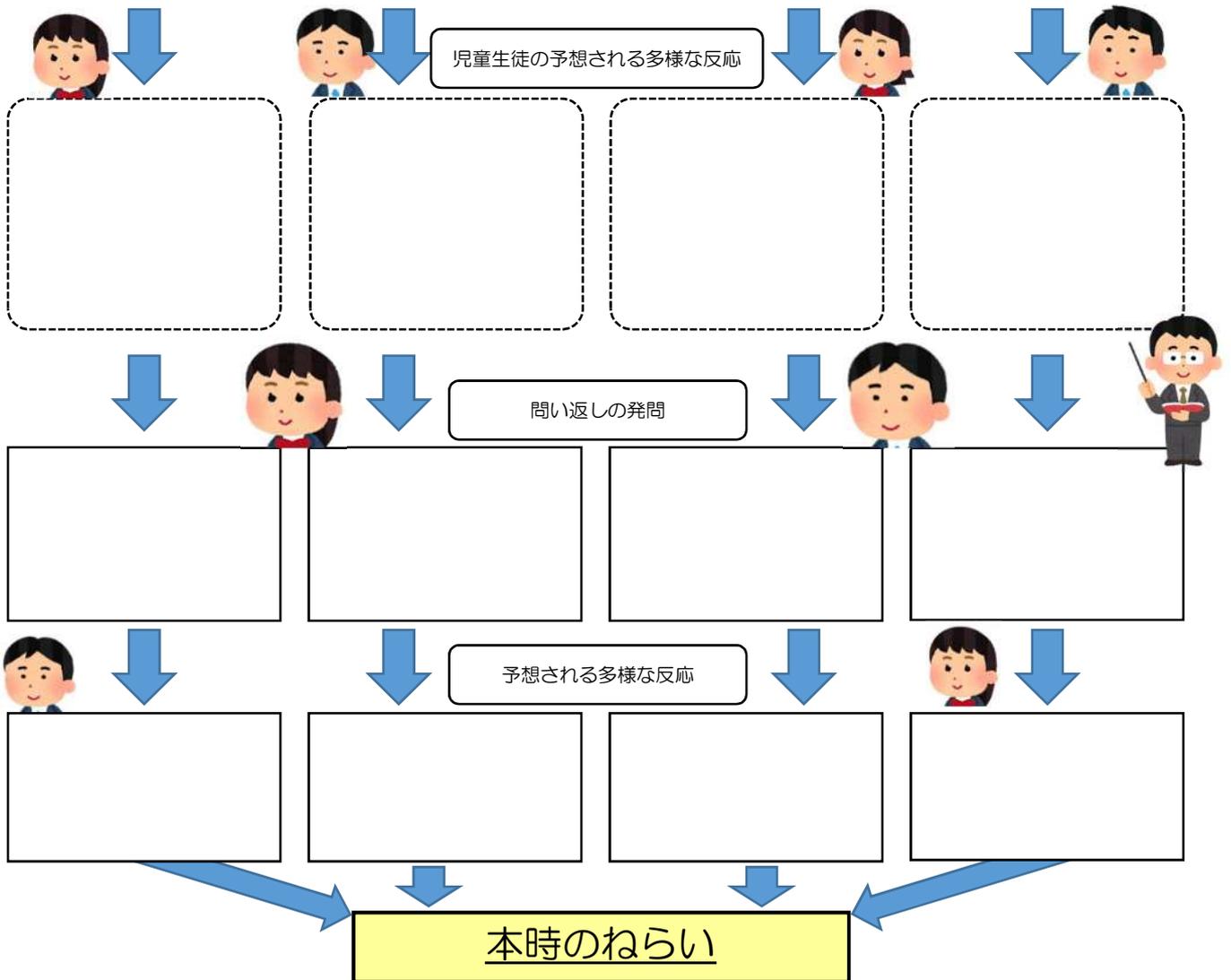


<p>★氷山の三層モデル (畿央大学 島恒生教授考案)</p> 	<p>①道徳的に変容した登場人物は、誰か。</p> <p>(A)</p>	<p>② (A) が変容するきっかけになった出来事は、何か。</p> <p>(B)</p>
	<p>③ (A) が、変容を遂げて、どうなったか。(教材に書いてある様子)</p> <p>(C)</p>	
	<p>読解レベル (教材から読み取れること)</p>	
	<p>道徳的価値レベル</p>	

本時のねらいを明確にしましょう。

○授業構想

ねらいにせまるための中心発問：教材分析④



- ※本時における一面的な見方から多面的・多角的な見方へとつながる問い返しの発問例
 - ①解決策の理由（動機）を問う発問 「どうしてそう思いましたか。」
 - ②将来の結果（因果関係）を問う発問 「そうしたら、どうなると思いますか。」
 - ③過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる発問 「自分も同じような経験はありませんか。」
 - ④可逆性の原理を用いた発問 「自分がそうされてもよいですか。」
 - ⑤普遍性の原理を用いた発問 「いつ、どこで、誰にでもそうしますか。」
 - ⑥互恵性の原理を用いた発問 「それで皆が幸せになれますか。」
 - ⑦その他 「～は、どんな気持ちでしょうか。」
「～のしたことをどう思いますか。」
- ※道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第2回）における岐阜大学大学院 柳沼良太准教授の配付資料より

（広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改編）

様式3 (教諭) 授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】

指導の形態		学部 学年		指導者	
-------	--	----------	--	-----	--

①学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題	
②児童生徒の実態	
③単元で身に付けたい力<自立と社会参加の視点から>	単元名



④目標として取り扱う教科で育成したい資質・能力(指導要領から抜粋)

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等

⑤主体的・対話的で深い学びのための手立て

--



⑥児童生徒の姿で考えると？

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度

⑦単元計画

時間	学習活動	ねらいにせまる(又は各教科等の見方・考え方を働かせる)児童生徒の姿	評価の計画		
			知	思	主

学部・学年		指導者	
-------	--	-----	--

★学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題

--

1 実態把握

(1)

子どもの姿	
本人の得意なこと、頑張っていること、好きなこと	本人の苦手なこと、困っていること
本人の願い	



(2) (1)について、「自立活動の6区分27項目」に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

(3) 数年後に目指す姿

--

(4) ① (2)で整理した姿から「何年か指導してきたが習得が難しいもの」「数年後に目指す姿との関連が弱いもの」を外す。
 ② 課題同士の関連を整理し、中心的な課題を導き出す。

	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div>	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div>
	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 60px; margin-bottom: 10px;"></div>



③ 中心的課題を導き出した理由(②で考えたこと)を記述する。

2 実態把握をもとに、指導目標を設定する。

3 指導目標を達成するために必要な指導項目を選定する。

選定された項目	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
	<input type="checkbox"/> (1)生活リズムや生活習慣の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> (1)他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> (3)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (4)障がいの特性の理解と生活環境の調整に関する事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (4)集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (4)感覚統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	<input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (5)健康状態の維持・改善に関する事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容の設定

指導目標を達成するために、「選定された項目」を関連づけて、具体的な指導内容を1～3つにまとめる。

具体的な指導内容			
指導場面			

* 今回行う授業に下線を引く。

5 主体的に取り組むことができるようにするための手立て(今回行う授業について)

様式3 (教諭) 授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】

学校教育目標 目指す児童生徒像 研究主題					
児童生徒名					
指導目標 (長期目標)					
指導内容					
育成すべき 資質・能力との関連					
学習や生活の中で 見られる長所やよさ 興味・関心					



児童生徒名				
単元の指導目標				
単元名				
主な活動内容				

★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に次の6点(幼稚園は7点)を意識しましょう。

- ア 主体的に取り組む
- イ 改善・克服の意欲を喚起
- ウ 発達の進んでいる側面を更に伸ばす
- エ 自ら環境を整える
- オ 自ら環境と関わり合う(幼稚園のみ)
- カ 自己選択・自己決定を促す
- キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説(幼稚園・小学部・中学部)』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。



児童生徒名						
単元の指導目標						
手立て(単元を通して)						
日時	活動内容	手立て 記録				準備物
		手立て 記録				
		手立て 記録				
		手立て 記録				

児童生徒名	評 価					
児童生徒の評価						
指導に対する評価	評価の視点	①活動内容 ④教具	②活動量 ⑤活動の場の配置	③活動の流れ ⑥指導目標の妥当性		

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

学校名（ ） 個人番号・氏名（ ） 教科等名（ ）

研究主題

1 研究の動機

2 研究の目的

3 研究仮説

4 研究の方法

5 これまでの成果と今後の課題

- ※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。
- ※ 記載内容については著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮すること。

教科等横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる

学校名（ ） 個人番号・氏名（ ） 教科等名（ ）

研究主題

1 研究の動機

2 研究の目的

3 研究仮説

4 研究の方法

5 結果

6 考察

7 成果と課題

8 参考文献等

※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。

※ 研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮すること。

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・課題研究・個人研修番号・学校名・氏名】として提出すること。

（例）中堅研・課題研究・111・〇〇中・〇〇〇〇 （個人研修番号は半角）

様式6（教諭）

〇〇〇第〇〇号
令和7年2月〇〇日

島根県教育センター所長 様

〇〇学校長 〇〇〇〇

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 報告書

1 対象者

職名	教諭	氏名	研修用個人番号
----	----	----	---------

2 研修の実施状況

(1) OJT研修

授業づくり	研修内容等		実施日	校内外の指導助言者
	課題研究の 発表	校内構想発表		月 日
校内中間発表		月 日		
校内成果発表		月 日		
授業研究	1 回目	学習指導案審議	月 日	
		研究授業	月 日	
		研究協議	月 日	
	2 回目	学習指導案審議	月 日	
		研究授業	月 日	
		研究協議	月 日	
メンタルヘルス（1回）			月 日	
学校を支えるOJT	ねらい			
	成果（成長したこと）	人材育成の対象者にとって		
		自分にとって		

(2) Off-JT研修
 ア オンデマンド研修(0.5日)

研修内容	オンデマンド動画を視聴した研修	校内研修で実施されたオンデマンド研修に代わる研修	校内研修で発表した研修
教育の情報化とICT活用実践紹介			
教職員の倫理と服務			
竹島に関する学習			
人権教育			
カリキュラム・マネジメント			
キャリア教育			

イ 異校種体験研修(2日) ※免除された者は、研修先に「免除」と記入

実施日	月 日、 月 日
研修先	
研修内容	

3 対象者の自己評価

育成指標における資質能力	取組に対する成果	次年度以降の展望
選択してください		
選択してください		

※ 報告書は2ページに収めること。

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・報告書・個人研修番号・学校名・氏名】として提出すること。

(例) 中堅研・報告書・111・〇〇中・〇〇〇〇 (個人研修番号は半角)

記入例

島教セ第 123 号
 令 〇 年 〇 月 〇 〇 日

「文書番号」を取得する。

島根県教育センター所長 様

〇〇学校長 〇〇〇〇

令和〇年度 中堅教諭等資質向上研修 報告書

1 対象者

職名	教諭	氏名	〇〇 〇〇	研修用個人番号	〇〇〇
----	----	----	-------	---------	-----

2 研修の実施状況

(1) OJT研修

実施日は、計画書の実施予定日と異なってもよい。

		研修内容等		実施日	校内外の指導助言者	
授業づくり	課題研究の 発表	校内構想発表		5月〇日	校長、研究主任	
		校内中間発表		11月〇日	学年主任	
		校内成果発表		1月〇日	校長、教頭	
	授業研究	1 回目	学習指導案審議		6月〇日	学年主任、教科主任
			研究授業		メンタルヘルスの講師名を記入する(教頭、養護教諭等)。 県、市町村、教育委員会主催の研修を受講した場合は、研修名と主催者名を記入する。	研究主任
		研究協議		校長、教頭		
		2 回目	学習指導案審議			研究主任
			研究授業		12月〇日	〇〇教育事務所〇指導主事
研究協議			12月〇日	〇〇教育事務所〇指導主事		
メンタルヘルス (1回)				7月〇日	「教職員のメンタルヘルス」 教育庁福利課	

学校を支えるOJT	ねらい	率先して授業を見せたり、・・・・若手教員が意欲的に自らの資質能力の向上を図る。	
	成果(成長した)こと 人材育成の対象者にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の何気ない会話の積み重ねによって、初任者は私を頼りに何でも相談するようになった。そのことは、初任者の安心感を高め、・・・・ 	
	自分にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・若手を育てるという意識を持ち続けることで、・・・・ 	

人材育成の対象者(若手教員または同僚)について、「学校を支えるOJT」を実施したことで、どのような変化(行動、態度、意識など)や成長があったのかを記入する。

(2) Off-JT研修

ア オンデマンド研修(0.5日)

研修内容	オンデマンド動画を視聴した研修	校内研修で実施されたオンデマンド研修に代わる研修	校内研修で発表した研修
教育の情報化に関する活用事例紹介	○	/	
教職員の倫理		○	
竹島に関する	○		
人権教育	○		
カリキュラ	○		
キャリア教育	○		○

それぞれの研修内容について、オンデマンド動画視聴か校内研修参加がわかるように、該当する欄に「○」を付ける。

動画視聴した研修をもとに校内研修発表したものについては、「校内研修で発表した研修」欄に「○」を付ける。

イ 異校種体験研修(2日) ※免除された者は、研修先に「免除」と記入

実施日	10月1日、10月2日
研修先	〇〇市立〇〇中学校
研修内容	授業参観による実態把握、打ち合わせ チーム・ティーチングによる授業実践

3 対象者の自己評価

育成指標における資質能力	取組に対する成果	次年度以降の展望
3職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	カリキュラム・マネジメントを意識して、理科の「振り子の運動」の学習と算数の「平均値」の学習は関連があるため、学習時期を変更して行った。そうすることで・・・	今年度・・・ 次年度以降は・・・したい。
4学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	特別活動・児童会活動の担当として・・・	・・・していきたい。 また、ミドルリーダーとして・・・

様式1の事前自己評価で選んだ「重点とする資質能力」をリストから選択する。

※ 報告書は2ページに収めること。

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・報告書・個人研修番号・学校名・氏名】として提出すること。

(例) 中堅研・報告書・111・〇〇中・〇〇〇〇 (個人研修番号は半角)

中堅教諭等資質向上研修(教諭)報告書等のチェックシート

☆ をしながら確認してください。

☆ 提出物については、すべて校長の指導、決裁を受けたものとします。

(1) 報告書[様式6] ※P36,37 記入例参照

- 文書番号が記入されている(例「島教セ第123号」)
- 文書期日が記入されている
- 授業づくりの実施日、指導助言者が記入されている
- メンタルヘルスの指導者は管理職、養護教諭等(SCは除く)又は研修会である
- 学校を支えるOJTが記入されている
- オンデマンド研修
 - ・全ての研修について「オンデマンド動画を視聴した研修」「校内研修で実施されたオンデマンド研修に代わる研修」のいずれかに○がついている
 - ・校内研修で発表した研修に○がついている
- 異校種体験研修が記入されている
- 対象者の自己評価が記入されている

(2) 課題研究レポート[様式5](最終報告用)

- 教科書や参考書等の複製を掲載していない
- 著作権(キャラクター等)、個人情報や肖像権(個人が特定される写真やプリント)等に注意している

(3) 学習指導案(密案1回分)

参考様式（教諭） この様式を参考に各学校で作成する

〇 〇 〇 第 〇 〇 号
令和〇年〇月〇〇日

〇〇〇〇学校長 様

〇〇〇〇学校長
〇 〇 〇 〇

研 修 依 頼 書

下記のとおり研修を行いたいので依頼します。

記

- 1 研修者名
- 2 研修名 中堅教諭等資質向上研修 異校種体験研修
- 3 目的 異校種の授業への体験的参加などを通して、系統性や発達の段階を踏まえた授業の在り方や異校種間の連携について理解し、自らの教育実践を振り返るとともに指導力の向上を図る。
- 4 研修日 月 日（ ） 、 月 日（ ）
- 5 研修内容
- 6 連絡先